

核燃料取出し 前進に期待

福島第 1 原発 3 号機の内部調査へ

高木副大臣が実証試験視察



開発されたロボットを手に取り、担当者から説明を受ける高木副大臣（右から 3 人目）＝ 13 日 神奈川・横須賀市

高木陽介経済産業副大臣（原子力災害現地対策本部 長＝公明党）は 13 日、神奈川県横須賀市の港湾空港技術研究所を訪れ、来月実施

する東京電力福島第 1 原発 3 号機の格納容器内部調査で投入される、水中ロボットの実証試験を視察した。内部調査は、政府と東電

が今夏をめどに、原子炉内に溶け落ちた核燃料（燃料デブリ）の取り出し方法の方針を決めるのに当たって実施。同研究所では、国際廃炉研究開発機構と、ロボット開発を担う東芝が、格納容器内部を再現した実寸大模型でロボットの实証試験や操作員の習熟訓練などを行っている。

高木副大臣は、投入される調査ロボットを手に取り説明を受けるとともに、実証試験の様相を視察した。

視察後、高木副大臣は「燃料デブリ取り出しを前進させるロボットだ。調査で内部の状況が分かるよう期待したい」と述べた。